

ふくしまの国保

3

2017年1月
第65巻3号

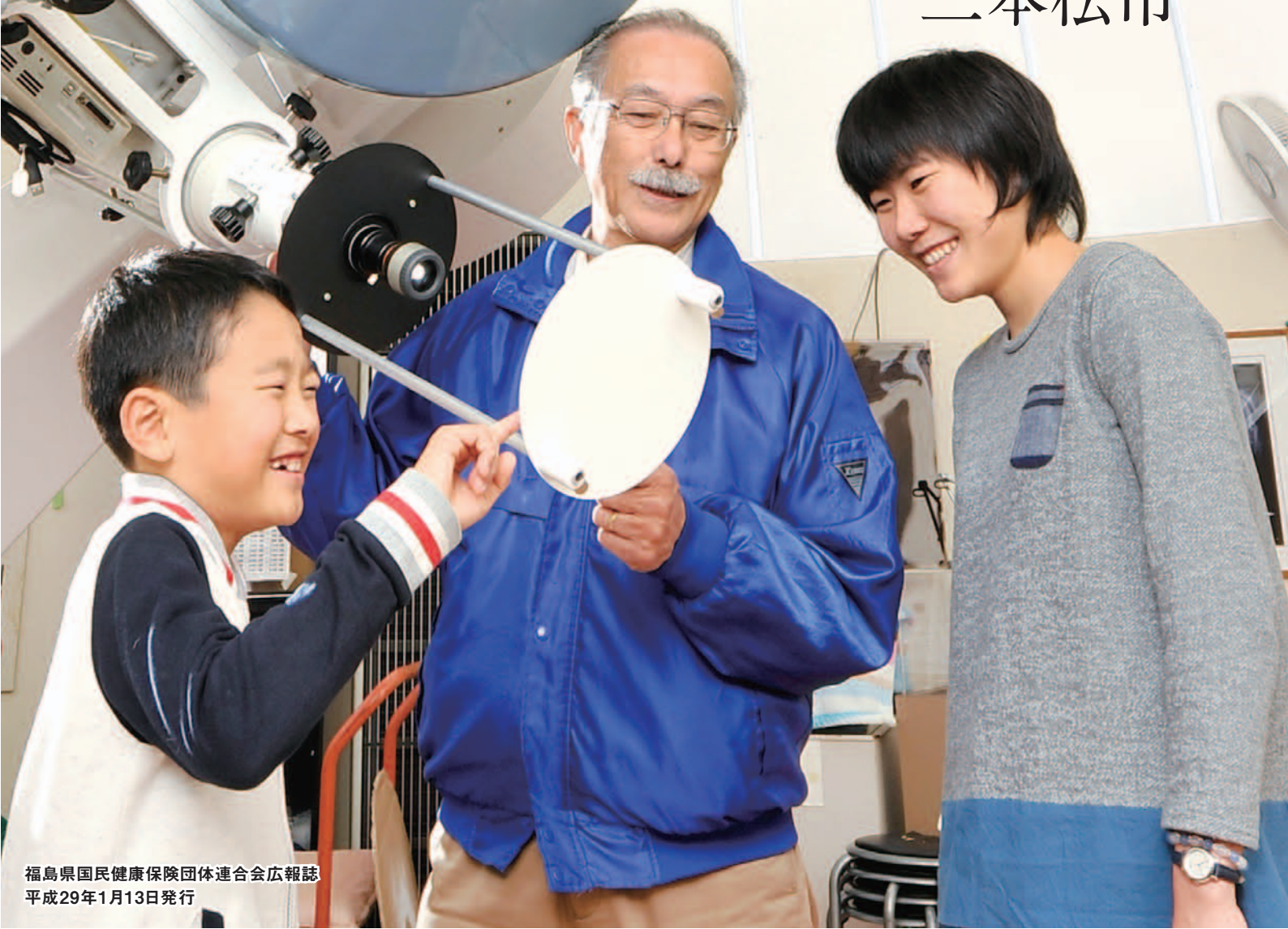
[シリーズ企画 健康長寿を目指して]

元気な人を、もっと元気に
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

いきいき長寿課

[市町村紀行]

二本松市



福島県国民健康保険団体連合会会長

古川 道郎



謹賀新年



ふくしまの国保
2017年1月第65巻3号

CONTENTS

- 01 年頭のご挨拶
- 05 シリーズ 健康長寿を目指して
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
いきいき長寿課
- 09 国保制度改善強化全国大会
- 10 市町村紀行「二本松市」
- 14 第56回
全国国保地域医療学会
- 15 健康な食彩
チキンときのこのクリームシチュー
- 17 Dr.の健康メモ
緩和ケアチームにおける
精神科医の関わりについて
- 19 健康運動
「冷え」を改善して、肩こり・腰痛対策!
- 21 ESSAY CORNER
- 22 DATA LAND
- 27 連合会日誌
- 29 連合会からのお知らせ
連合会行事予定
- 30 永年の功績をたたえて

新年明けましておめでとうございます

- | | | |
|---|---|---|
| <p>会長</p> <p>川俣町長 古川 道郎</p> <p>副会長(会長代行)</p> <p>白河市長 鈴木 和夫</p> <p>副会長</p> <p>二本松市長 新野 洋
浅川町長 須藤 一夫
北塩原村長 小椋 敏一
いわき市長 清水 敏男</p> <p>常務理事</p> <p>二瓶 辰右エ門</p> | <p>理事</p> <p>福島市長 小林 香
郡山市長 品川 萬里
天栄村長 添田 勝幸
小野町長 大和田 昭
鮫川村長 大樂 勝弘
南会津町長 大宅 宗吉
会津坂下町長 齋藤 文英
富岡町長 宮本 皓一
南相馬市長 桜井 勝延</p> | <p>監事</p> <p>伊達市長 仁志田昇司
鏡石町長 遠藤 栄作
泉崎村長 久保木正大
喜多方市長 山口 信也
双葉町長 伊澤 史朗
公認会計士 高野 宏之</p> <p>事務局一同</p> |
|---|---|---|

保険者から信頼される 事業運営を推進

新 しい年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。

平素より皆様方には、国保事業の発展と健全な運営にご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。さて、国保は国民皆保険の中核となる医療保険として、地域住民における医療の確保と健康の保持増進に大きく貢献してきました。

本会は、保険者の共同目的により設立された公法人であり、診療報酬等の審査支払業務及び保険者事務の共同処理事業を中心に事業運営を推進して参りました。

しかしながら、国保は他の医療保険制度と比べ被保険者の年齢構成が高く、医療費水準が高いなどといった構造的な問題を抱えており、国保財政の運営は大変厳しい状況が続いております。

こうした問題を解決するため、一昨年5月に成立した法改正により、国保への財政支援の拡充や平成30年度から新たに都道府県が国保の財政運営の責任主体を担うこととなることは画期的

なことですが、将来にわたり国民皆保険を堅持していくためには、全ての国民にとって給付の平等、負担の公平の実現が不可欠であり、医療保険制度の一本化を早急に実現すべきです。

また、国は低所得者が多い国保保険者の財政基盤を強化するため、平成27年度から保険者支援制度に1,700億円の公費拡充を実施しておりますが、平成29年度からの更なる1,700億円の公費投入は国と地方の合意事項であり、遅延なく確実に実施されるべきであります。

本会は、新たな国保制度の趣旨に則り、市町村事務の標準化や保険者努力支援制度等の新たな仕組みに対応し、円滑な移行を実現できるよう保険者支援に取り組んで参ります。

具体的には、これまで保険者がそれぞれで実施してきたレセプト二次点検業務の受託体制の整備や任意給付等で取り扱われてきた地方単独医療費助成事業の併用レセプトによる請求支払事務の取り扱いなど、保険者の事務効率化のため、鋭意検討を進めております。



さらに、新たに導入する国保保険者標準事務処理システムでは、市町村事務処理の標準化のためのシステム改修や事務的な見直し、平成30年度の納付金・標準保険料率の確定作業、国保情報集約システムの稼働等の本格的な対応が控えており、これまで以上に県や市町村と連携を強化して取り組んで参ります。

併せて、被保険者の健康状態に即したより効果的、効率的なデータヘルス事業を実施できるよう、保健事業支援・評価委員会の運営や職員の派遣による助言等、積極的に支援していく所存です。

本年も職員一同、最善の努力を尽くして、保険者から信頼される事業運営を推進して参りますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

平成29年 元旦



福島の新しい未来を切り拓く

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく6年を迎えようとしております。今もなお8万人を超える県民の皆さんが避難生活を続けているほか、被災者の生活再建や廃炉・汚染水対策、風評・風化といった二つの逆風など、様々な課題が山積しており、福島の復興はいまだ途上にあります。

一方で、環境・医療分野を始めとした新たな拠点施設の整備進展、相馬福島道路や東北中央自動車道といった交通インフラの整備進展、さらには大型観光キャンペーン等の展開による県内観光地のにぎわい回復や文化・スポーツ面での若者の活躍など、明るい光が強まりを見せてまいりました。

この光を更に大きな輝きとし、県民の皆さんがより一層復興を実感できるように、復興計画に基づく重点プロジェクトを着実に実行に移し、スピード感を持って取り組んでまいります。特に、避難地域の復興再生は最優先課題と考えております。インフラの復旧・整備はもちろん、ふたば医療センターの整備を始めとする医療提供体

制の確保や公共交通ネットワークの構築、学校再開の支援など、広域的な課題にもしっかりと取り組むとともに、国、市町村と一体となって12市町村の将来像の実現やイノベーション・コースト構想の具体化を図り、一人でも多くの方がふるさとに安心して住み、暮らし、働ける環境づくりを進めてまいります。

また、本県の復興を更に前へ進めていくためには、経済や産業の活性化が極めて重要であります。農林水産業、商工業、観光業など既存産業の再生はもとより、再生可能エネルギーや医療関連産業を始め、ロボット、航空宇宙関連産業といった新たな時代をリードする成長産業の育成・集積を図ってまいります。

そして、復興と併せて取り組まなければならぬ課題が地方創生であります。震災以降、本県の人口は12万人以上も減少しましたが、もともと福島県は「構造的な人口減少」という重い課題を抱えております。こうした人口減少に歯止めを掛けるため、「ふくしま創生総合戦略」に基づき、未来を担う若い世代に対する施策を中心に、雇用

の創出や定住・二地域居住の推進など新しい人の流れづくり、切れ目のない結婚・出産・子育て支援、地域における新たな魅力の創出といった様々な施策を総合的に進め、福島ならではの地方創生、人口減少対策に重点的に取り組んでまいります。

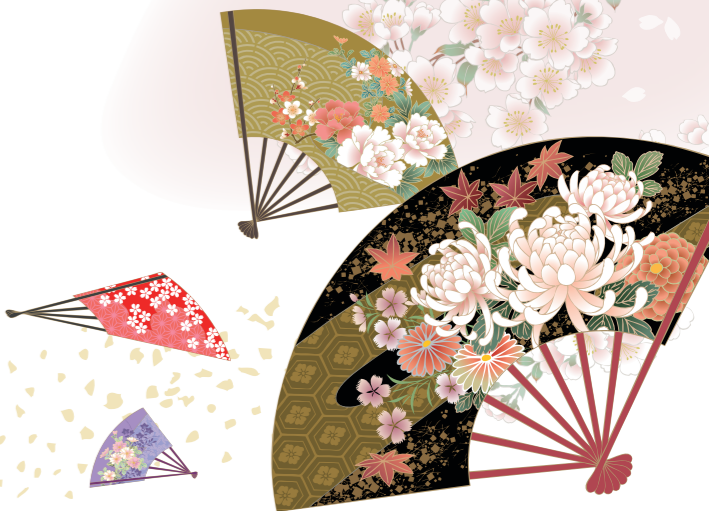
さらに、国民健康保険法の改正により、平成30年度から県は、国民健康保険の財政運営の責任主体となり市町村とともに国保の運営を担うことになりました。新たな制度へ円滑に移行できるよう、今後とも市町村や関係機関の皆様と御協力しながら取り組んでまいります。

震災・原子力災害からの復興と地方創生を2つの大きな柱として、福島に心を寄せてくださる国内外の全ての方々と手を携え、新しい未来を拓き、世界に誇れる福島の実現を目指して、全力で取り組んでまいりますので、今後とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。

平成29年 元旦



福島県知事
内堀 雅雄



国民健康保険中央会会長
岡崎 誠也



山積する諸問題の解決へ向け 全力で対応

新年あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

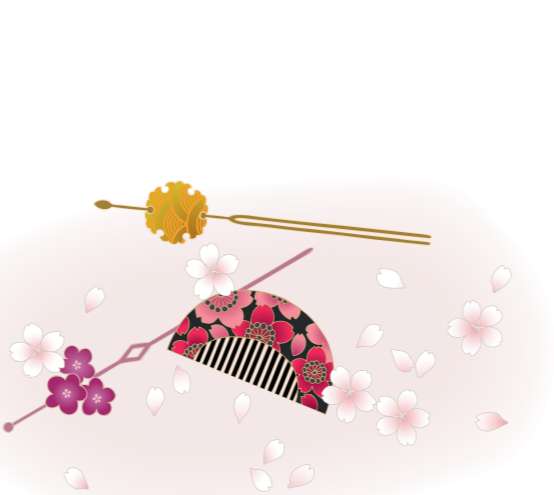
国保制度は、相扶共済の精神のもと、我が国の国民皆保険の中核として、地域医療の確保や地域住民の健康の維持増進に大きく寄与してまいりました。しかしながら、中高齢者が多く加入し医療費の増加は年々著しく、経済の低迷や低所得者の増加などと相まって、厳しい財政運営を余儀なくされています。

このような状況の下、一昨年の法改正により、平成30年度から都道府県が財政責任の主体として事業運営の中心的な役割を担うという、制度創設以来の大改革が実施されることとなりました。今年、新制度施行に向けた最後の年であり、都道府県や市町村、国保連合会におかれては精力的に準備を進められていると存じます。本会

市町村の新制度対応などに必要な国保保険者標準事務処理システムを予定どおりリリースするなど、総力を挙げて支援していく所存です。

政府は、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者が重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを構築していくこととしております。この取組の中で、国保保険者も医療や予防等の分野で積極的に関わっていくことが求められています。本会及び国保連合会では、国保データベース(KDB)システムを使い、健康づくりを進めるためのデータヘルス計画の策定・支援・評価を行っておりますが、より効率的で効果的な健康づくりに貢献できるよう引き続き努力してまいります。

また、コンピュータチェックの拡充等審査支払業務の効率化や社会保障・



税番号制度の施行への対応、医療・介護等のビッグデータの更なる活用といった直面する重要な課題にもしっかりと対応してまいります。

国保制度は今日、大きな変革期を迎えておりますが、本会は、これまでどおり全国知事会、全国市長会、全国町村会をはじめとする地方関係団体や国保連合会とともに、山積する諸課題の解決に向けて全力で取り組みを続けてまいります。

皆様からの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新しい年が希望に満ちた明るい一年となることを心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成29年 元旦

シリーズ「健康長寿を目指して

元気な人を、もっと元気に

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

いきいき長寿課

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会いきいき長寿課は、活力ある長寿社会の実現に向け、高齢者の生きがいと健康づくりを支援する社会参加活動を推し進めています。今回はいきいき長寿課の二瓶弘課長にお話を伺いました。

長寿ではなく「いきいき」長寿を

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会のいきいき長寿課は、本格的な高齢社会の到来に備えるために平成2年6月に設立された財団法人福島県長寿社会推進機構を前身とし、その後の全国的な行財政改革の流れを受けて、平成18年4月に設置されました。特徴的なのはその名称です。いきいき長寿課という親しみやすい名称に込められた想いとは何でしょうか。福島県社会福祉協議会には、困っている人を助ける役割の部署が多い中、いきいき長寿課は「元気な人にもっと元気に、ずっと元気でいてもらうこと」を目的に活動しています。「二瓶課長、ただ健康に長生きするだけでなく、「いきいき」

長生きすることを目指して高齢者を支援しているのがいきいき長寿課です。福島県内の高齢者一人ひとりがもっと自分らしく長生きできるように、「長寿社会に向けた普及啓発活動の推進」、「高齢者の生きがいづくりと社会参加を推進するための環境整備」、そして、「高齢者総合相談事業の大きく3つの活動を行っています。

生きる模範を社会へ発信

「長寿社会に向けた普及啓発活動の推進」では、まずシニア世代の生きがいと健康づくりを応援する広報誌「いきいき長寿だより」を発行しています。長寿社会に向けて的確な情報発信を行うために、福島県社会福祉協議会が毎月発行する

福祉情報誌「はあとふるふくしま」に差し込んで、福島県や市町村、各市町村の社会福祉協議会、老人クラブ連合会などに配布。福島県内の高齢者の社会参加活動を支援する「サザンクロスクラブ」の事業報告、いきいき長寿課が主催する福島県シルバー美術展の案内などを発信しています。

また、長寿社会のイメージアップを図ることを目的に「いきいき長寿県民賞」も開催。概ね65歳以上を対象に年齢を感じさせない生き方をしている高齢者や積極的に社会参加活動を行っている高齢者の団体を表彰しています。平成28年度は個人8名、2団体の計10件が受賞。俳句一筋70年の女性や町のPRソングを作り町民の絆を深めている男性、福祉施設への慰問を続ける団体など、生き方の模範となるような情熱と豊かな個性を持つ方々を紹介しています。

選考の過程では実際にいきいき長寿課のスタッフが入賞候補者を訪問して活動状況を把握した上で審査。元氣な高齢者にお会いすると、スタッフ自身が刺激を受けることも多いそうです。「社交ダンス歴40年の受賞者は、91歳を超えても、背筋がピンとして、動きもシャキシャキ。大会での優勝を目指して、衣装を新調され、日々トレーニングされています。身が引き締まる思いでしたね」と二瓶課長。年々、平均寿命が伸びる中、実感として元



▲いきいき長寿課が発行する「いきいき長寿だより」は、福祉情報誌「はあとふるふくしま」の別冊として配布されています。

気な高齢者は増えているとのこと。「受賞式に10人、20人も仲間と訪れ、喜びを皆さんと全身で表現されている姿は特に印象的でした」と振り返ります。いきいき長寿県民賞は、受賞者のさらなる元気につながっているようです。

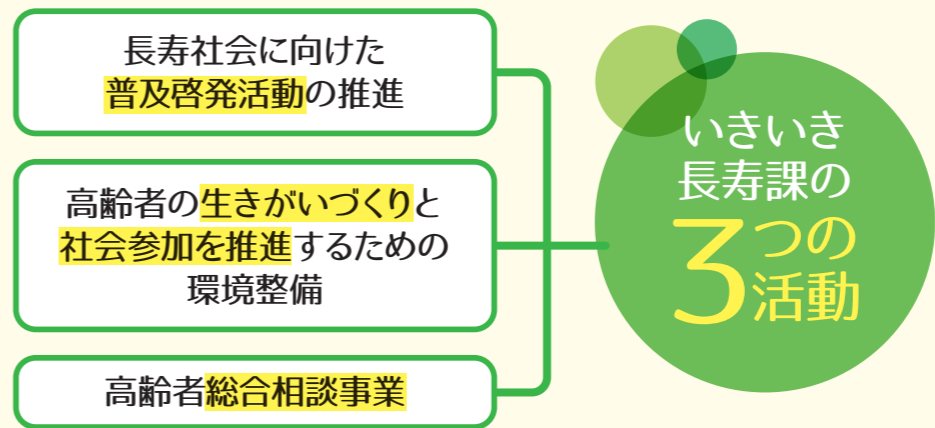
また、広報誌や県民賞以外にも、東日本大震災の発生時に浪江町津島地区で被災した高齢者の体験を集めた「3.11ある被災地の記録」という記録集の制作や販売、今年からは新たに、高齢者の生きがいづくりの資料として、「シルバー美術展」の入賞作品集を制作、配布をし、高齢者の元気を応援しながら、高齢者が長年積み上げてきた体験や感性を次の世代に伝える活動も行っています。

高齢者のいきいきとした笑顔あふれる福島県へ

▼今年「いきいき長寿県民賞」を受賞した「いわき芸能赤十字奉仕団」の皆さん。それぞれが培ってきた民謡や踊りなどを生かして年3回福祉施設などで慰問活動を行っています。メンバーは70代、80代が中心ですが「すべて自分たちで行う」をモットーに実施。訪問先での「また来てね」との一言に、自分たちも励まされ刺激を受けているとのこと。



▲「いきいき長寿県民賞」の表彰式の様子。受賞者の元氣な姿は、私たちの生きる模範です。





▲高齢者総合相談センターと認知症コールセンターのチラシ。いずれも無料で相談に応じています。

や医療に関する問い合わせは41件でしたが、これは介護や福祉、健康などの相談窓口として各地域に地域包括支援センターが設置され、相談が分散したことが一因と考えられます。また、近年増加傾向にある認知症については、課内に認知症コールセンターを設置し、認知症ケアの経験豊富な相談員が、異常行動への対処方法や家族としての向き合い方など、認知症に悩む方々の課題や不安に応えています。

いきいき長寿課では、今年度から福祉サービスに関する相談等を担う福島県運営適正化委員会の事務局としての活動も行っており、高齢者総合相談センター及び認知症コールセンターと連携することにも、必要に応じ関係機関への情報提供を行うなど具体的な解決に向けた相談・助言あつせん等を行っています。



◀福島市にある高齢者総合相談センターとコールセンターの様子。相談者の声に耳を傾け、悩みや不安の軽減につなげています。また、介護や認知症に関する講演会・相談会なども開催して、積極的な情報発信も行っています。



社会とのつながりを通じて、人生をより豊かに

出会いを通じた生きがいづくり支援

「高齢者の生きがいづくりと社会参加を推進するための環境整備」では「シルバー美術展」の開催と、シニア団体などの主体的な活動を支援する環境の整備を行っています。

「シルバー美術展」は、高齢者が創作した洋画や日本画、書、写真、彫刻・工芸の5部門の作品を展示して高齢者の文化活動と、それを通じた交流、生きがいづくりをサポートしています。特に優れた作品には部門ごとに県知事賞、福島県社会福祉協議会長賞などを授与。今年度は393点の応募があり、夏には展覧会が開催されました。作品の水準は高く、特に優秀な作品はねりんピックなどの全国大会へ出展されています。

また、シニア団体活動の支援事業も実施しています。どれだけその団体が盛んに活動していても、知ってもらえなければ、新たな出会いにはつながりません。そこで、地域で積極的に活動している団体を掘り起こしてデータベース化した上

で一般に公開。活動内容や会員数、連絡先などを分かりやすく紹介しています。それにより、意欲ある高齢者とシニア団体との出会いを生み出し、地域活動へ参加するきっかけを作ること、高齢者の生きがいと健康づくりを応援しています。さらに、今年初の試みとして、「サークル運営基本講座」を開講。単に参加者と団体の出会いの機会を提供するだけでなく、その団体の運営自体もサポートすることで、高齢者の社会活動を中長期的に支援しています。

法律から認知症まで多様な相談に対応

「高齢者総合相談事業」では高齢社会の様々な問題に対応するために専門相談・巡回相談会などを行って、高齢者と家族の不安払拭と問題解決へのアドバイスを行っています。平成27年度は738件の相談があり、法律に関する相談が308件で最多。特に相続や金銭貸借、高齢者の財産管理など、「財産・金銭」に関する問い合わせが多く寄せられました。一方、保健



▲「福島県シルバー美術展」は今年で26回目の開催。60歳以上の方を対象に美術作品を募集し、特に優れた作品を展示、表彰しています。夏に福島県文化センターで開催された展覧会では、多くのお客様が来場され、作品を丁寧に鑑賞されていました。

社会福祉法人
福島県社会福祉協議会
いきいき長寿課 課長
二瓶 弘さん

社会福祉法人
福島県社会福祉協議会 **いきいき長寿課**
住 所: 福島市渡利字七社宮111番地
電 話: 024-524-2224
F A X: 024-524-2228
E-Mail: choju@fukushimakenshakyo.or.jp
ホームページアドレス: <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

これからも高齢者の社会との窓口

これまで多くの元氣な高齢者と向き合ってきた二瓶課長に、健康長寿になるための秘訣を聞いてみました。「体が健康であることはもちろん大切ですが、それと同じくらい心の健康や経済的な安定も必要なのように思います。平均寿命が伸びて、長寿が増えた一方で、連日寄せられる相談の中には厳しい状況に置かれている人がいるのも事実です。そうした中、社会参加を通じて多くの人と接している人ほど、「元氣な印象を受けます」と二瓶課長。街へ出て、人と話をして、社会活動の中で役割を持つ。それが生きがいを育み、健康長寿につながっていくのかもしれない。

いきいき長寿課は、情報発信で長寿社会への理解を促し、イベント開催や団体の支援で社会参加につなげ、個別の悩みで電話相談で応える。つまりは社会と高齢者をつなぐ窓口の役割を担っていると言えます。こうしたいきいき長寿課の取り組みは、従来の高齢社会のイメージを変え、実態を変えていく力を秘めているかもしれません。健康長寿を目的にするのではなく、毎日をいきいきと充実して生きた結果、健康長寿になっている。そんな理想とすべき個人の生き方と健康長寿社会のあり方を、いきいき長寿課は私たちに提示してくれていると感じました。

目の前の業務の先にあるもの

いきいき長寿課の業務内容は、「元氣な人を、もっと元氣にする」ことなどを目的としたものでした。それは緊急な対応が求められるものでも、すぐに目に見えた成果につながるものでもないと考えます。しかし、二瓶課長は「これからも今までやってきたことをこつこつと継続していきたいと思っています」と今後の抱負を語っていました。それはきつと、多くの元氣な高齢者とのふれあいの中で、改めて目の前の業務の大切さを実感されてきたからだと思えます。いきいき長寿課が取り組む生きがいづくりは、実はどんな薬や治療法にも優る健康長寿への近道なのかもしれません。国保に携わるものとして、目先の成果にとらわれるのではなく、日々の業務の意義を考えながら取り組んでいきたいと思えました。





地道な取り組みが健康なまちづくりへつながっていく

二本松市の国保の状況を見てみると、人口の減少と共に、国保世帯数や被保険者数が年々減少傾向にあります。一方で、国保の被保険者一人あたりの医療費・調剤報酬については共に増加傾向であり、医療費増加の要因である重症化を予防することや、特定健診・特定保健指導での疾病への早期対応などが重要となっています。こうした課題に対し、二本松市は平成26年度に策定したデータヘルス計画に沿って、計画的な取り組みを行っています。

二本松市市民部国保年金課は、国保年金係と医療給付係の2つの係があります。国保年金係は国民健康保険に関する資格給付、保健事業、国民年金に関する事業を、医療給付係は子育て支援や重度心身障害者の医療費助成、後期高齢者医療に関することなどが主な業務となります。今回は、佐藤秀大国保年金課長と国保年金係の関根係長、安達恭平主事に特定健診や医療費適正化等に対する取り組みと、そこから見えてきた課題について伺いました。

未受診者の特性に合わせた受診勧奨で効果を発揮

二本松市では特定健診の受診率が伸び悩んでいましたが、受診率向上に向けた積極的な取り組みの実施により、平成22年度で37.45%だった受診率を徐々に上昇させ、24年度には40%台、27年度には42.63%となりました。着実に受診率を伸ばしている

裏には様々な努力があります。これまで特定健診の受診には1,000円の被保険者負担金をいただいていたことが、28年度から無償化することで、より受診しやすい環境づくりを行っています。また、特定健診未受診者に対し、健康意識をタイプ別に4つの階層に分け、それぞれの階層別に適したリーフレットを作成し郵送することで、より効果的な受診勧奨を始めた。健康に関する意識が高い人へ向けたリーフレットは健診受診で兆候を見つけられる病名などの内容が記載されており、それほど高くない人には生活習慣病の怖さや、健診が手軽に受けられる点が強調されるなど、タイプ別に注意を引くような内容となっています。これに加え、従来から行っている電話による受診勧奨の効果も相まって、結果として「少しずつ受診率が伸び、取り組みの効果が始まっています」と安達主事は語ります。

他にも、特定健診受診率を上げるためのツールとしてマイレージ事業の活用もされています。二本松市では、健康意識の向上と運動習慣の定着を図るため平成27年度からマイレージ事業をスタートしましたが、その中にも特定健診を受診することでポイントが加算される項目があります。本年度はこのマイレージ事業をきっかけに特定健診を受診した被保険者もおり、今後この事業を契機とした受診者の増加が期待されます。

また、特定健診後の特定保健指導については昨年度より利用勧奨をスタートさせており、今年度からは通常の保健指導に加えて、訪問型の保健指導も始めようとしています。病院が遠くて通院による特定保健指導が困難な方や、仕事によって時間が合わない方に対して実施を予定しており、特定保健指導の利用率を上げるために奮闘しています。

若年層への積極的アプローチ

二本松市は若年層に対しても積極的にアプローチしたいと考えています。関根係長は「特定健診についても60歳以上の方は受診率が高い傾向にありますが、高齢になってから重い病気にかかってしまうとそこから改善するのはなかなか大変です。若いうちから健診を受けていただき、早期に生活習慣病への取り組みを始めることが大切だと感じています。早期受診と特定保健指導を利用してもらうことで将来的な医療費削減へつなげていきたいです」と前向きな姿勢を見せます。

具体的な若年層への取り組みとして、安達主事は「これまで特定健診の未受診者には年齢の区切りなく一律電話での受診勧奨を行ってきましたが、来年度からは40歳

から65歳くらいに焦点を絞って行いたいと考えています」と語ります。若年層への絞ったアプローチをすることで特定健診の更なる受診率向上を目指します。

長期視点で取り組む糖尿病重症化対策

特定健診や特定保健指導で、疾病予防の取り組みをする一方で、罹患してしまった方の重症化予防についても対応が進められています。KDBシステムを用いた疾病統計の分析を進めると、二本松市では高血圧や糖尿病、脳梗塞、精神疾患等の医療費の割合が高く、医療費増加の要因の一つとなっています。医療費増を食い止めるための一歩として、糖尿病性腎症への取り組みをスタートさせています。

今年から開始された糖尿病性腎症の重症化予防指導には現在4名の方が参加しており、一人一人の状況を把握しながら適切な治療や服薬、食事や生活習慣の見直しにつながる保健指導が行われています。こうした取り組みに対し「今年開始の事業であり、まだ大きな効果が表れたわけではありませんが、長期的に見て医療費を抑えることにつながられたらと考えています」と関根係長は力を込めます。一旦重症化すると長期に渡る人工透析が必要となる糖尿病は、患者を一人減らすだけでも医療費削減に大きく寄与します。地道な取り組みにより長期的な医療費減に期待が寄せられます。

独自資料の作成で被保険者の理解度アップ

二本松市では前述のタイプ別受診勧奨リーフレット以外にも独自の資料を作成し、被保険者に理解を求めています。昨年、ここ10年の国保状況をまとめた『にほんまつの国保』という冊子を作成し、国保世帯へ配布しました。これは旧二本松市で発行していたものを合併から10年の記念号として作成したもので、国民健康保険の仕組みや二本松市の国保税率、医療費の状況など国保に関する情報がまとめられています。二本松市での保健事業内容についても掲載されており、被保険者が国保について理解を深める上で役立つ冊子となっています。

左/関根係長、疾病の重症化予防による医療費抑制や国保税収納率の向上などを推進しています。下/国保年金課の様子。報告・連絡・相談を密に行い、円滑な業務遂行に努めています。





第56回 全国国保地域医療学会

「地域包括医療・ケア」を地域づくりの礎に
～出羽国から国保新時代を見据えて～

10月7日(金)、8日(土) 山形県 山形テルサ・ホテルメトロポリタン山形

全国国保診療施設協議会、国保中央会等国保診療施設関係8団体が主催する第56回全国国保地域医療学会が2日間に渡り山形県山形市で開催された。本学会は地域医療及び地域包括医療・ケアの実践の方途を探求するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図ることを目的としており、本年も約1,500名が参加し、地域包括医療・ケアを中心にセミナーや意見交換が行われた。

開会にあたり、阿部吉弘学会長は「この学会で脈々と議論してきた地域包括ケアが全国津々浦々まで行き渡ることや更なる深化が求められている。地域包括医療・ケアが地域の礎となり、より良い地域づくりとなるよう2日間の学会が役に立つものと信じている」と述べた。

国診協の押淵徹会長は「団塊の世代が超高齢期を迎える2025年、団塊ジュニア世代が高齢期に差し掛かる2035年に備えた取り組みが求められている。要介護者の増加と共に介護にあたる青壮年層の減少が懸念されており、この課題を考慮に入れた準備が喫緊の課題である」と述べた。

初日には「これから問われる『地域力』〜地域包括医療・ケアと地方創生〜」のテーマの下、国保直診開設者サミットが開かれ、全国の市町村長や病院長等が各地域の特性を活かした地域包括医療・ケ

アへの取り組み状況を発表した。これに対し厚生労働省保険局国民健康保険課長の榎本健太郎氏が「地域の数だけ地域包括ケアのあり方がある。単に地域で支えるという一方通行な関係ではなく、人と地域が支え合う相互の関係をどう構築していくかが重要な課題である」と助言を行った。

2日目には「『地域包括医療・ケア』を地域づくりの礎に〜住民と一体となって取り組むために〜」と題したシンポジウムが開かれた。4名の発表者が住民視点からの地域包括医療・ケアについて発表し、厚生労働省老健局老人保健課長の鈴木健彦氏により「地域包括ケアシステム構築では自治体、特に市町村の関与が非常に重要であり、市町村のサービスと地域の方々の協力を得ていくことが必要である。更に都道府県が広域的な立場としてサポートすることも非常に重要である」とアドバイスを行った。

また、脳トレで著名な川島隆太東北大学加齢医学研究所教授を講師に迎え、「脳を鍛えて認知症を予防する」のテーマで行われた市民公開講座には多くの一般市民も参加し、熱心に講演に耳を傾けていた。

閉会式では、第57回学会は東京都で開催されることが発表され、第56回全国国保地域医療学会は幕を閉じた。

市町村紀行 二本松市



特定健診未受診者への取り組みについて語る安達主事。きめ細やかな対応が受診率向上につながっています。

二本松市の収納率は過去3年間91%を推移しています。国保税については税務課市民税係で賦課を行い、徴収については税務課収納係が実施しています。税務課では滞納処分を積極的に行っており、自宅の捜索や動産の差し押さえ等の取り組みも行っています。国保年金課では、滞納者に短期被保険者証や資格証明書を交付し、収納率の向上へつなげる取り組みを実施しています。関根係長は「納税しない方がいることで、きちんと納税されている方の税負担が増加することとなります。公平な税負担のためにも、収納率を高めようと税務課と協力しながら頑張っているところです」と収納率向上へ意欲を覗かせます。

国保税収納率の向上へ 公平な税負担を

今後の課題として、平成30年度からの国保広域化についてのお話も伺いました。佐藤課長は「平成30年度の国保広域化に伴い新しい業務が増えており、今後も県や連合会からの情報を整理・理解し、取り組んでいきたいと考えています。一方で、難しい部分も多く、四苦八苦しています。様々なことをさっくばらんに相談できるのが連合会の強みだと思いますので、今後も質問窓口などを充実してもらえるとありがたいです」と話します。

データヘルス計画に沿って、二つ一つ課題に挑戦している二本松市。地道な取り組みが健康なまちづくりへつながっていくと感じられました。また、平成30年度の国保広域化への姿勢も伺い、連合会でも円滑に制度移行できるようなサポートしていきたいと思っています。

国保広域化に向けて



- 1 /今年で47回を迎えた「東和ロードレース」。「東北のポストンマラソン」と称される市民マラソン大会で全国からランナーが集います。
- 2 /二本松市の中心部にある霞ヶ城公園は、春には約2,500本の桜が咲き誇るなど、四季折々の景色が楽しめる市民の憩いの場です。
- 3 /日本百名山の安達太良山の紅葉。例年10月上旬が見ごろです。標高1,322mの薬師岳パノラマパークからは一面の紅葉の絨毯が眺められます。

今回のテーマ
短時間の
煮込みで完成!
寒い季節に
ぴったり!

健康な食彩

チキンときのこのクリームシチュー

材料(2人分)
エネルギー
496 kcal
たんぱく質...19.1g
脂質...36.3g
炭水化物...19.2g
食塩...1.8g

鶏もも肉	160g	玉ネギ	80g	水	40cc
塩	小さじ1/4	生しいたけ	40g	牛乳	120cc
コショウ	少々	シメジ	40g	生クリーム	80cc
薄力粉	小さじ5	えのき	40g	塩	小さじ1/3
サラダ油	小さじ1	バター	大さじ1/2	コショウ	少々
彩り野菜		酒	40cc	ローリエ	1枚
かぼちゃ	2切れ(60g)			パセリ	適宜
ブロッコリー	2切れ(30g)				

- 鶏もも肉は大きめのそぎ切りにし、塩コショウをする。
- 玉ネギは1cm幅のくし型、生しいたけは4つ切り、シメジは小房に分け、えのきは3cm長さに切る。パセリは粗く刻み、水で流してあくを抜く。
- ビニール袋に①と薄力粉を入れて振り、薄力粉をまぶす。
- サラダ油を引いたフライパンに③の鶏もも肉を入れてから火をつけ、中火で焼く。この時、ビニール袋に残っている薄力粉も加える。肉の周りが焼けたらフライパンから取り出し、火を止める。
- 冷めたフライパンにバター・玉ネギ・きのこを入れてから着火し、中火で炒めしんなりしたら、酒・水・④・牛乳・ローリエを加え、蓋をして4分程煮込む。肉に火が通ったら、生クリームを加えひと煮立ち後、塩コショウする。
- 皿に、⑤を盛り、パセリを散らし、彩りに茹でた野菜や芋を添える。(写真は茹でたかぼちゃとブロッコリー)

手軽においしく作るコツ

ルウを別に作らないから簡単!

白く、粉臭さが無い美味しいルウ(トロミのあるソース)に仕上げするには、薄力粉をまぶした鶏肉を、中火で焦がさないように焼くのがコツです。

健康に食べるコツ

- ★鶏もも肉を鶏むね肉に変えると、エネルギーと脂肪を抑えることが出来ます。鶏肉の代わりに、魚(生鮭やタラ)でも美味しくできます。
- ★チキンときのこのクリームシチューは主菜兼汁ものになります。脂肪が多いので、主食はご飯か、パンの場合はバター無しとします。副菜はノンオイルの野菜サラダがオススメ。



会津大学短期大学部
食物栄養学科 准教授
文レシビ 鈴木 秀子
福島大学大学院地域政策科学研究科修了
管理栄養士、修士(地域政策)
県職員として、県立病院、栄養士養成施設、
保健福祉事務所勤務を経て、現在に至る。
幼児期の食育、食環境整備、食をとおした
地域づくり活動をテーマに研究。



食塩は生きていく上で大切な栄養素ですが、その必要量はわずか数gとされています。摂りすぎた食塩は健康に悪影響を及ぼし、高血圧はじめ生活習慣病の発症及び重症化のリスクを高めます。

長い減塩運動により、日本人の食塩摂取量は減りつつありますが、加工食品や中食の利用が増えたため、思うように減らないのが現状です。平成24年国民健康・栄養調査結果によると、福島県の成人ひとり一日あたり食塩摂取量は男性が12.1g(全国8位)、女性が9.9g(全国13位)と多く、食事摂取基準の目標値(男性8.0g、女性7.0g)の約1.5倍にもなりますので、減塩が必要です。

減塩は、まず「我慢・暗い」というイメージがあります。これを払拭し、ヘルシーで明るく楽しく前向きに取り組むために、「美(微)塩」と名づけました。少ない食塩は健康だけでなく美容にも良いことを知り、人々の暮らしに寄り添って、おいしく・楽しく・美しく・食塩を減らすことを提案するものです。

家計調査*によると、福島市は、カップ麺の購入金額は全国第5位と多いことが分かりました。大学売店でもカップ麺は良く売れています。学生は、簡単に安いからではなく、カップ麺の味を求めて買うという人が多いです。これから寒くなると、温かく、おいしい上に濃い目の味つけが食べたいと、お弁当にカップ麺や味噌汁をプラスする人が多くなります。カップ麺1個には約5〜7gの食塩が含まれ、塩分濃度も一般的な汁ものの約2倍と濃いので、食べないようにするか、スープを残すのが従来の減塩でした。しかし、これほど皆に親しまれているなら、むしろ、カップ麺を健康的に食べる方法を普及した方が良いでしょう。調べてみると、別包のスープには約3〜5gの食塩が使われています。スープの素を半分にして規定量のお湯を注いでも、たっぷりの旨味で美味しく食べる事ができました。食塩は約2g減らずに済みます。残りのスープの素は、翌日、カットワカメや春雨、刻みネギを足してスープにすれば無駄にならず、罪悪感がありません。スープを減らしたカップ麺に、カットワカメや刻みネギを追加すれば、食事としての満足感も高まります。ちよつとした工夫で抵抗無く食塩は減らせます。さあ、「美(微)塩」生活ははじめよう!

「美(微)塩」生活
はじめましょう!

*家計調査(二人以上の世帯)品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング(2013年~2015年平均)、総務庁

Dr.の健康メモ

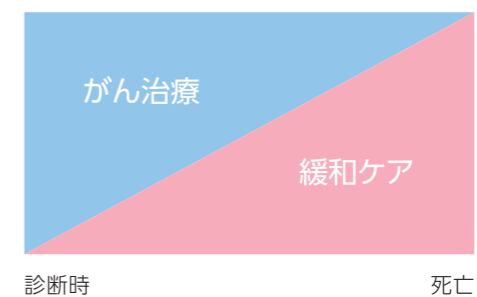


緩和ケアチームにおける精神科医の関わりについて

緩和ケアチームとは

緩和ケア Palliative care とは、「生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に同定し適切に評価し対応することを通して、苦痛(suffering)を予防し緩和することにより、患者と家族の Quality of Life を改善する取り組みである」(WHO、2002)とされています。緩和ケアと聞くと積極的な治療ができない状態を想像されるかもしれませんが、平成24年6月閣議決定されたがん対策推進基本計画においても、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」が重点的に取り組むべき課題として位置づけられ、治療早期からさまざまな苦痛に対処することが求められています(図1)。前述の通り患者さんの苦痛は多面的で、①身体的苦痛だけではなく、②不安や落ち込み、イライラ等の精神的苦痛、③仕事や家庭内の問題や課題などの社会的苦痛、④自分の生きてきた意味や価値、死生観といったスピリチュアルな苦痛とに大別され(図2)、これら全人的苦痛に対応するため緩和ケアチームが組織されています。緩和ケアチームは身体症状担当医師、精神症状担当医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、リハビリテーション担当者など他職種で構成され、様々な視点から患

図1 現在のがん医療モデル



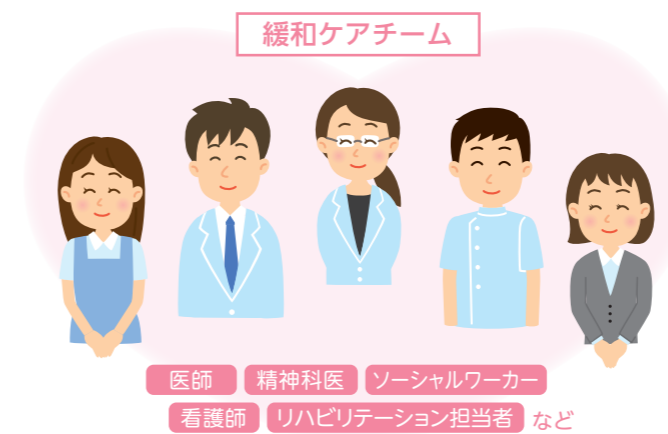
者さんの苦痛を軽減できるようカンファレンスで議論されたり、チーム回診を行ったっています。

図2 全人的苦痛とは

1. 身体的苦痛
痛み、呼吸苦、吐き気、便秘・下痢など
2. 精神的苦痛
不安、抑うつ、イライラ(怒り)、不眠など
3. 社会的苦痛
仕事や家庭、経済的な問題など
4. スピリチュアルな苦痛
自分の生きてきた意味や存在価値、死生観など

緩和ケアチームにおける精神科医の役割

精神医学の中でも、「がんが患者とその家族の心に与える影響」、「心や行動ががん罹患することや罹患した後の生存期間などに与える影響」を考える医学を精神腫瘍学(サイコオンコロジー)と言います。緩和ケアチームにおいて精神科医は、がん患者に対して単に精神症状の評価と治療にとどまらず、がん医療全般と緩和医療に関する基本的知識の習得、さらに、緩和ケアチーム医療における精神医学的な専門的対応を求められます。



緩和ケア領域で多くみられる精神症状とその対応

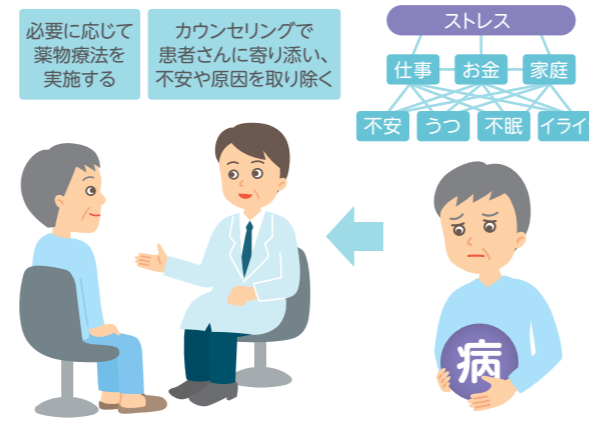
緩和ケア領域で頻度の高い精神疾患として(1)適応障害、(2)せん妄が挙げられます。

の薬剤との交互作用に注意して使用する必要があります。

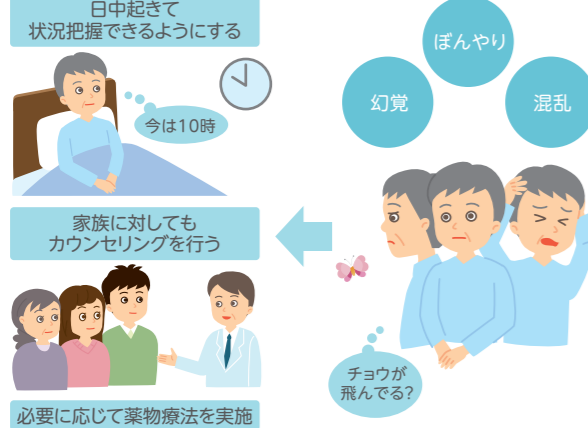
(1)適応障害とは、ストレスや生活・環境の変化に反応して、不安や抑うつなど主観的な苦悩や情緒の反応を来したものを言います。がんへの罹患やその告知、がんの症状や治療に伴う苦痛さらには仕事や家庭生活、経済的な面への影響などまさに多面的な問題がストレスとなり、不安や抑うつ、不眠、イライラなどを呈します。これらの情緒反応はある意味生理的な反応ととらえることもできますが、緩和ケアではさまざまな苦痛を軽減することに主眼を置きますので、生理的な反応であっても患者さんの苦痛が大きければ介入を行います。適応障害の治療としては①精神療法、②薬物療法を行います。精神療法では受容と共感を主として、現在、過去の問題やこれまでの生活史に目を向け、患者さんがその人なりする方法でがんを理解し、適応していくことを援助することが必要になります。薬物療法は症状に応じて行いますが、主として不安や抑うつを来す方が多いことから抗不安薬や抗うつ薬を用いるのが一般的です。薬物療法を行う際には、がん患者さんの場合原疾患やその治療のため種々の身体症状を呈していることも多いため、副作用や他

(2)せん妄は意識障害の一つで、意識がぼんやりと曇った状態を基盤に、混乱や不眠、幻覚、不安などが出現する状態を呈します。日中はむしろ眠気が強かったり寝ていたりしていますが、夜間は不眠となつてつじつまの合わない行動が出現することも多く、夜間にみられるせん妄は夜間せん妄と呼ばれる。せん妄は身体疾患や薬剤、他の様々な身体要因が原因となつて発症しますが、緩和ケア領域では疼痛緩和に用いられるオピオイドの使用などが契機になることが多いとされています。せん妄は混乱や非現実的な認知、感覚を引き起こすため、ご本人だけでなくご家族や周囲の人にも不安や影響を及ぼします。治療は原因を取り除くことが大原則になりますが、身体疾患の状態不良の際には原因を除去することは困難なことも多いため、抗精神病薬を主体とした薬物療法と、患者さんが混乱に陥らないような非薬物療法(日中なるべく起きた状態を保つ、カレンダーや時計を置き状況把握を分かりやすくする、など)を行います。合わせてご家族や周囲の人に状態を適切に説明することも重要となります。

適応障害



せん妄




がんは罹患される方が多い現在、ご紹介した精神的なケアを含めたきめ細やかな対応が望まれています。これらを実現するために、多くの精神科医に緩和ケアやサイコオンコロジーの重要性・必要性を知ってもらい身に付けてもらうことが重要とされています。

手ぶらぶら

ぶらぶらさせて血行を促進。肩周りも脱力させ、上半身を前傾させることで、背中の緊張もほぐれて気持ちよくなる。

ほぐれる主な箇所

肩関節・僧帽筋・三角筋・首の後ろの部分

ポイント

腕の重みを感じられる体勢であれば効果があるので、物を持って負荷をかけないようにしましょう。指先は伸ばさず、自然に下ろします。腰が痛い場合は、無理をせずに曲がる程度のところまで十分です。肩と首の力は抜いてください。

回数

自分が心地よいと思う程度の長さで行います。まずは20秒程度からはじめましょう。リラックスして行うことが大切なので、やりすぎは禁物です。



1 体を前に倒し、腕を重力にまかせてぶらりと下げます。

僧帽筋
首・肩・背中の中程に広がる筋肉。

肩関節
肩を動かす筋肉。

2 そのまま腕をぶらぶらさせます。

背中ひねり

椅子に座ったまま実施できるので、日常生活に取り入れやすいです。自律神経が整って心もスッキリ。

ほぐれる主な箇所

背柱起立筋・広背筋

ポイント

無理に背中をひねろうとすると肩に力が入りやすいので、ゆっくりと出来る範囲で行いましょう。

回数

左右1往復を、3~5回程度行いましょう。慣れてきたら、心地よい程度に回数を増やしましょう。



1 椅子にやや深めに腰掛けます。

広背筋
姿勢を支える筋肉。

2 息を吐きながら背中をひねります。後ろを向くようにして行うとやりやすいです。

3

後ろを向いたら、椅子の背もたれを両手(もしくは片手)でつかみまます。そのまま3~5秒キープ。ゆっくり元に戻して、反対側も同じように行います。

背柱起立筋
背骨を支える筋肉。



冷えの予防に! 簡単 エクササイズ3

岡田麻紀

Maki Okada

福島県郡山市生まれ。健康生活研究所 所長、福島大学 非常勤講師、福島学院大学 非常勤講師。やせる! 楽しい! 若返る! 「やきとりじいさん体操」を考案。動画サイトYouTubeで話題となり、2008年にYouTube年間動画大賞(ハウツー部門)を受賞。



1 肩幅に足を開いて立ち、両手を身体の前でクロスさせます。

2 そこから大の字にするように上に開きます。この時に息を吸います。

3

両手をからだの前でクロス。この時に息を吐きます。膝をゆるめ、上半身を前傾させ、肩の力も抜いて全身をリラックスさせましょう。ゆっくりとからだを元に戻します。

大の字 深呼吸

全身のストレッチで血行促進。一緒に深呼吸を行うと、心身がゆるまってコリがほぐれ、より血行が促進されます。

ほぐれる主な箇所

背柱起立筋・肩関節・大腰筋

ポイント

心地よく深呼吸をしてから、反動をつけずにゆっくり行いましょう。

回数

3~5回程度行います。日常生活で気づいたときに心地よい程度に何度でも行いましょう。

「冷え」を改善して、肩こり・腰痛対策!

体 が冷えると、自律神経のうちの交感神経が活発になり、筋肉や血管を収縮させて体温が下がらないように働きます。すると、血流が悪くなり、疲労物質がたまって肩こりや腰痛を引き起こすのです。ですから、「冷え」対策が、肩こり腰痛対策にもつながります。今回ご紹介する運動を行うことで、血行促進により新陳代謝が向上し、自律神経のバランスも整うため、冷えの予防、改善につながります。また、体をゆるめる運動は、リラックス効果が高く、心身ともに緊張をほぐし、冷え対策となります。

運動を行う上での注意点

- ① 持病や痛みのある方は、自分の体調や体力に合わせて負荷や回数を調整してください。見本通りでなくても効果があります。
- ② 痛みがある場合は、痛みがでないように無理のない範囲で行ってください。
- ③ 床が滑ったり、周りにモノがあったりすると怪我の原因に。運動しやすい服装と環境で行ってください。
- ④ 食後1時間は行わないことが望ましいです。
- ⑤ 持病のある方は専門医に相談しながら行ってください。

運動を行う上でのポイント

- ① 呼吸を止めないで行います。
- ② 反動をつけずにゆっくりと行います。
- ③ 動かしている部分を意識して行うと効果が高いです。

毎日の体操で健康長寿を目指そう!



健康運動

毎日たった10分でできる健康運動をご紹介します。自宅で手軽にできるエクササイズで健康長寿を叶えましょう!

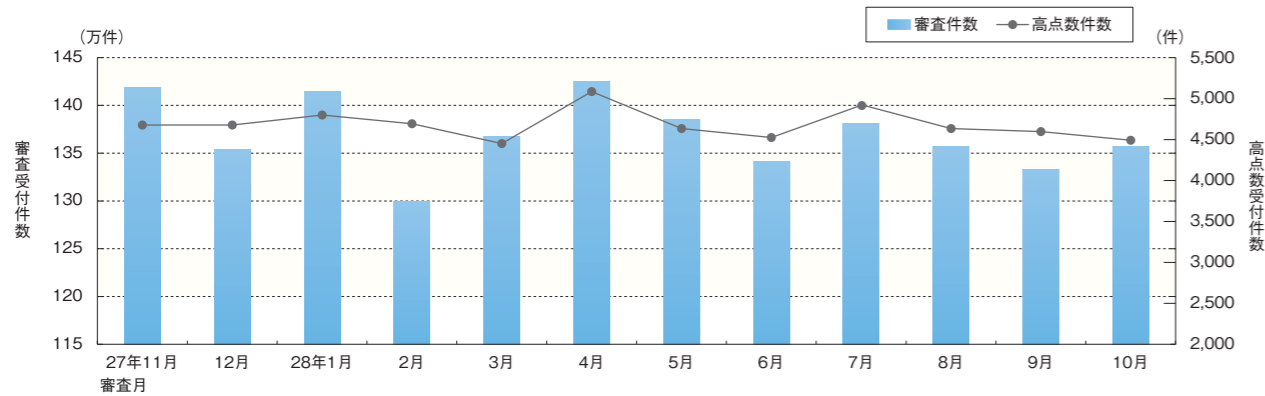
今回のテーマ

目で見る 医療費の動き

データランド
DATA LAND

7月以降、高点数
レセプト件数は減少

国保・後期高齢者分レセプト審査状況



審査月	28年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
審査受付件数	1,415,461	1,352,194	1,413,506	1,298,863	1,365,830	1,426,184	1,384,723	1,342,640	1,384,210	1,358,711	1,335,939	1,358,275
高点数件数	4,644	4,623	4,742	4,692	4,418	5,103	4,648	4,534	4,909	4,653	4,604	4,493
特別審査件数	18	26	37	37	38	44	29	20	36	33	27	24

※1 審査受付件数は、国保・退職・後期分の医科・歯科・調剤レセプトを対象。
 ※2 特別審査分：40万点以上のレセプト（歯科分のレセプトは20万点以上）。
 ※3 高点数：8万点以上40万点未満のレセプト。
 ※4 ※2～3共に返戻分・調剤分のレセプトを除く。
 ※5 東日本大震災による概算請求分等は含まない。

最高点数レセプト

平成28年8月審査分（7月診療分）

国保	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	757,118	120,992	入	23	女	60代	胸部大動脈瘤
			入	31	男	70代	口角びらん

後期高齢者医療	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	1,068,533	122,223	入	30	女	80代	僧帽弁および大動脈弁の合併障害
			入	17	女	90代	左下顎歯肉癌

平成28年9月審査分（8月診療分）

国保	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	607,545	96,715	入	31	男	70代	後天性フォンウィルブランド病
			入	20	男	70代	左舌癌

後期高齢者医療	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	907,015	85,134	入	13	男	80代	胸部大動脈瘤
			入	31	女	80代	口腔顎顔面悪性腫瘍

平成28年10月審査分（9月診療分）

国保	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	884,769	66,707	入	25	男	70代	胸腹部大動脈瘤
			外	4	男	60代	左舌癌術後

後期高齢者医療	請求点数		入外	日数	性別	年代	傷病名
	医科	歯科					
	797,968	83,957	入	10	男	80代	上行大動脈拡張
			入	30	女	90代	急性根尖性歯周炎

8月審査分の後期医科で
100万点超えのレセプト発生

ESSAY CORNER エッセイコーナー

福島県内の市町村等の国保担当者をご紹介します。エッセイコーナー。職場環境や健康づくり、趣味の話題等、日々の暮らしの中で感じたことを語ってもらいます。



小野町役場 町民生活課
町民担当（2年目）

猪狩 信輔さん

主な業務

給付・資格・保健事業

趣味

サッカー、音楽鑑賞



会津坂下町役場 生活課
国保年金係（2年目）

稲垣 慎太郎さん

主な業務

国民健康保険給付関係

趣味

音楽、漫画、映画

初心にかえる

皆さんこんにちは。小野町役場町民生活課の猪狩と申します。

私は、平成22年4月に採用となり、健康福祉課で介護保険・高齢福祉関係業務を5年経験し、平成27年度より国民健康保険の担当となり2年目となります。また、今年度より議会事務局の併任書記として貴重な経験をさせていただいております。

趣味のサッカーについては、先日私の母校が出場する全国高校サッカー選手権福島県大会決勝戦の応援に行ってきました。結果は惜しくも負けしましたが、自分が16年前に同じ舞台にたって後輩と同じようにがむしゃらに頑張っていた気持ちを思い出しやすい機会となりました。

最後になりますが、役場へ入庁したときの初心を忘れずに今後の業務に邁進したいと思います。

毎日が社会勉強

皆さん、こんにちは。会津坂下町役場生活課国保年金係の稲垣と申します。私は、大学を卒業後、平成27年4月に会津坂下町役場に入庁しました。生活課国保年金係に配属され、1年目は窓口および資格異動に関する業務を担当し、2年目を迎える今年度は主に療養費給付に関する業務を担当しています。この係に配属される以前は保険の「ほ」の字も分からないレベルでしたが、上司の丁寧なご指導は然り、住民の方々との対応で生まれた数々の反省が、私を成長させた実感しています。

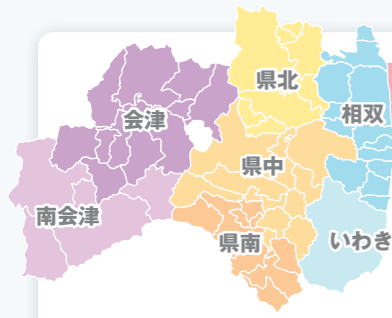


▲ともに汗を流した高校のサッカー部の仲間たちは現在も大切な存在。



▲仲間と演奏したり、曲を作ることが好きです。

日々の業務で勉強不足だと実感させられる事があるのは相変わらずですが、今まで自分が知らなかったことを知ることにおいてはいつも喜びを感じます。仕事であると同時に、私にとっては毎日が社会勉強です。



地域別の医療費の動き

県中の一般／退職の対前年比は、件数・費用額共に減少しているが、後期高齢者は増加している

平成28年10月審査分

ここでは、59市町村を県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわきの7地区に分けて医療の動向をお知らせします。

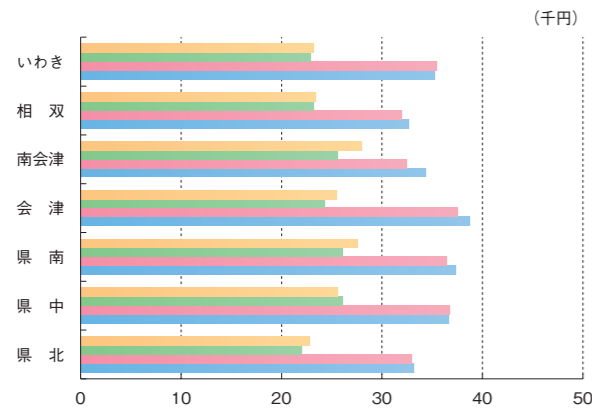
①件数・費用額(医科、歯科、食事・生活療養、調剤、訪看)

(件/円)

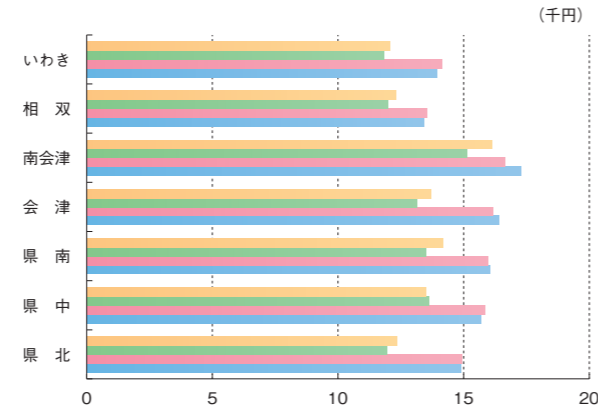
	一般 / 退職				後期高齢者			
	件数	対前年比	費用額	対前年比	件数	対前年比	費用額	対前年比
県北	152,879	97.01%	2,999,428,376	99.02%	179,142	102.71%	4,810,991,826	100.91%
県中	155,184	96.81%	3,357,326,426	93.75%	160,886	103.01%	4,818,069,414	101.90%
県南	39,253	97.36%	949,186,992	101.04%	40,561	101.35%	1,280,727,082	98.27%
会津	81,462	97.30%	1,730,140,066	100.94%	101,158	102.29%	3,037,319,596	98.19%
南会津	8,734	98.52%	216,124,677	101.58%	12,916	104.52%	364,282,311	98.11%
相双	90,833	99.57%	1,822,192,939	97.54%	74,095	104.10%	1,963,318,978	99.58%
いわき	114,079	97.07%	2,205,866,257	96.34%	129,942	102.89%	3,645,379,634	101.23%

②諸率(医科、歯科)

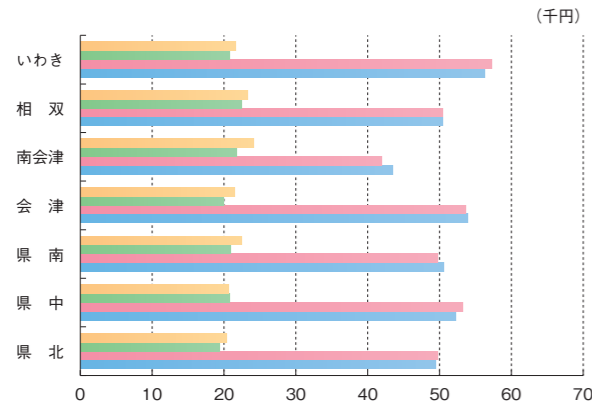
1件当たり費用額



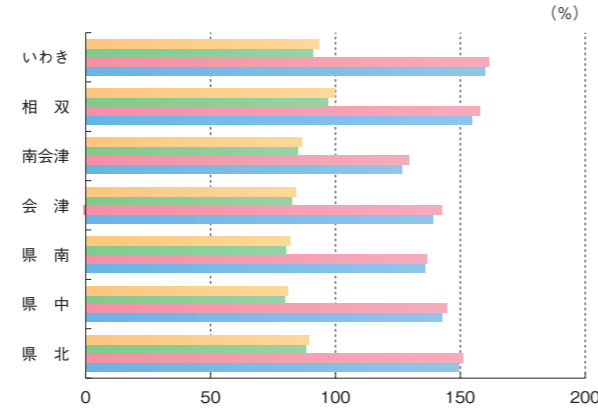
1日当たり費用額



1人当たり費用額



受診率



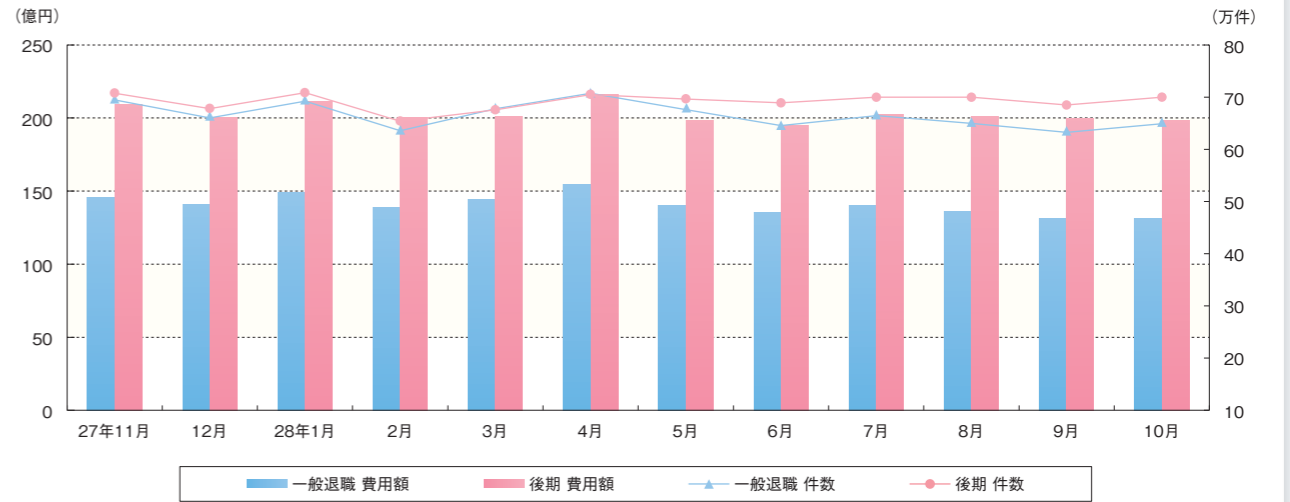
■【一般/退職】28年10月審査分 ■【一般/退職】27年10月審査分 ■【後期】28年10月審査分 ■【後期】27年10月審査分

※①②共に本会の審査支払確定値より算出し、東日本大震災による概算請求分等は含まない。

国保・退職・後期高齢者医療の動き

一般退職の被保険者数は減少、一方で後期高齢者の被保険者数は増加し続けている

■件数・費用額の動き(医科、歯科、食事・生活療養、調剤、訪看を対象。国保は県内61保険者の計。)

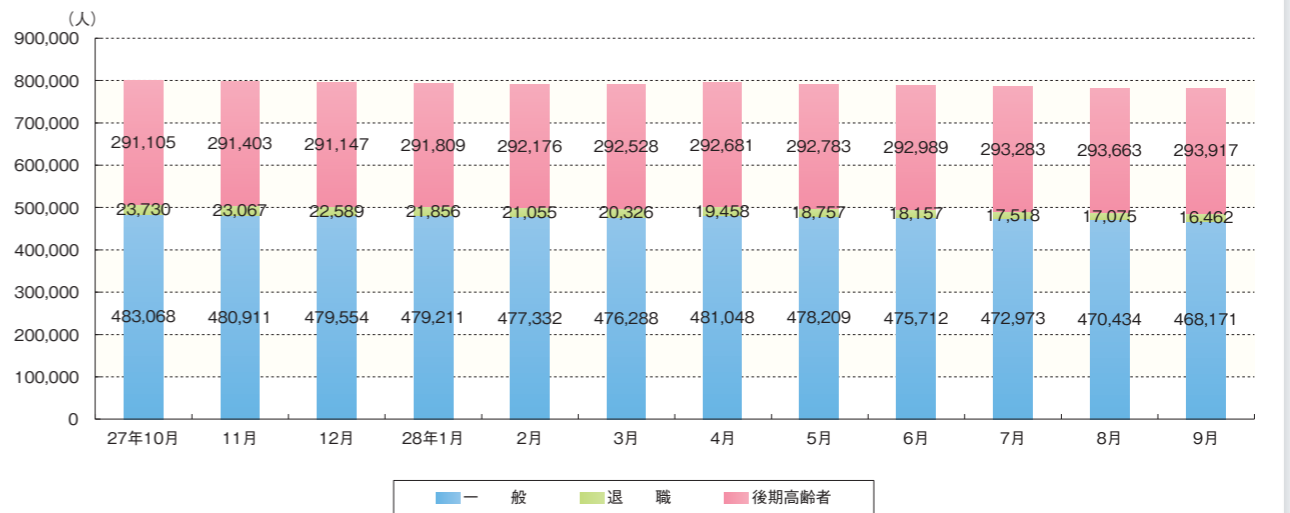


審査月	(件)											
	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般退職	694,417	660,753	694,249	635,390	678,054	707,265	675,135	648,342	669,323	652,107	636,520	647,507
後期	707,917	678,985	707,987	653,633	676,945	707,400	696,477	683,033	704,320	696,413	686,699	698,700
計	1,402,334	1,339,738	1,402,236	1,289,023	1,354,999	1,414,665	1,371,612	1,331,375	1,373,643	1,348,520	1,323,219	1,346,207

審査月	(千円)											
	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般退職	14,597,902	14,107,010	14,947,637	13,969,490	14,435,132	15,445,628	14,088,942	13,536,955	14,065,820	13,600,424	13,373,994	13,371,019
後期	20,968,198	20,028,598	21,184,738	19,993,563	20,174,625	21,656,180	19,960,141	19,504,644	20,283,956	20,113,784	19,989,393	19,920,089
計	35,566,099	34,135,608	36,132,376	33,963,052	34,609,757	37,101,809	34,049,083	33,041,598	34,349,777	33,714,208	33,363,387	33,291,108

※ 本会の審査支払確定値より算出。

■被保険者の動き(県内61保険者の計)



※ 被保険者数は、福島県の「毎月事業状況報告書(月報)」による。

介護～一人当たり費用額 28年10月審査分

一人当たり平均費用額は、前号の162,101円と比べて2,623円増加

(円)

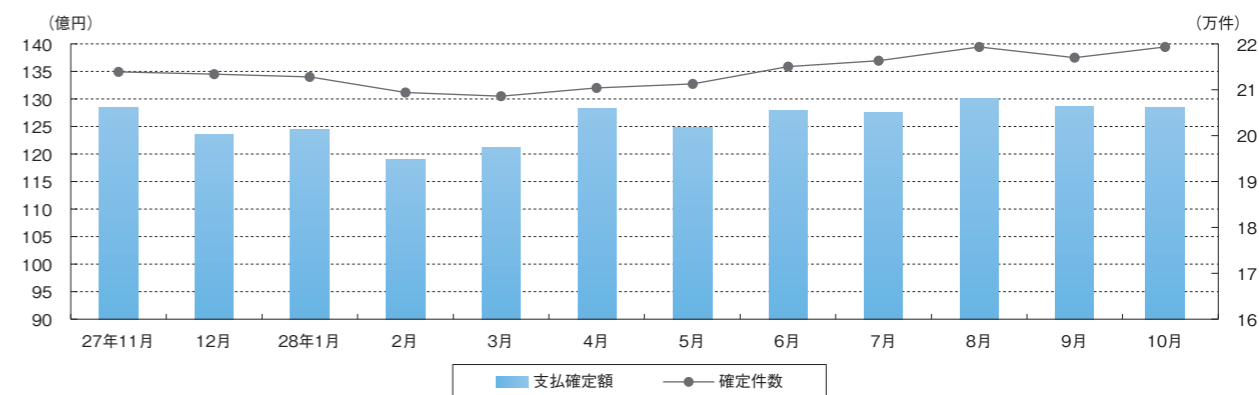
保険者名	一人当たり平均費用額	一人当たり居宅サービス費用額	一人当たり地域サービス費用額	一人当たり施設サービス費用額
福島市	137,095	102,563	164,110	323,609
二本松市	170,495	105,453	155,612	322,089
郡山市	135,005	104,174	176,931	329,781
須賀川市	147,015	103,373	155,304	326,900
白河市	156,109	98,275	151,035	316,306
会津若松市	148,528	100,809	145,485	333,307
喜多方市	158,516	84,784	180,736	329,551
いわき市	138,219	96,061	169,388	317,162
相馬市	172,532	127,253	146,529	315,605
田村市	156,302	102,810	248,203	322,968
南相馬市	158,534	107,271	165,208	313,373
伊達市	142,797	105,247	150,188	328,555
本宮市	162,284	110,183	152,307	309,945
川俣町	158,095	119,188	195,357	338,772
桑折町	158,241	124,612	108,917	316,142
国見町	150,863	116,862	87,797	348,767
大玉村	187,216	119,736	149,709	332,465
鏡石町	163,779	106,415	163,350	323,288
天栄村	194,364	122,249	148,290	343,032
南会津町	149,965	89,440	103,882	321,290
下郷町	150,125	101,871	63,498	336,437
檜枝岐村	260,861	241,567	0	270,509
只見町	149,545	85,419	164,968	295,996
磐梯町	177,877	99,092	182,238	355,588
猪苗代町	165,917	91,084	181,512	330,799
北塩原村	156,436	96,927	218,940	302,393
西会津町	162,441	109,446	208,642	309,685
会津坂下町	176,758	117,597	198,772	311,301
湯川村	167,112	100,120	291,615	320,029
柳津町	148,866	77,469	122,473	308,553
会津美里町	169,617	122,945	268,328	321,983
三島町	205,818	118,906	139,583	311,048
金山町	166,295	90,379	139,420	320,109
昭和村	174,831	108,934	0	360,033
棚倉町	167,061	95,077	163,558	317,793
矢祭町	218,567	106,525	272,668	416,496
塙町	150,235	78,771	109,183	338,137
鮫川村	191,302	95,065	326,544	330,758
西郷村	161,047	104,955	141,181	313,560
泉崎村	184,084	132,694	161,919	286,473
中島村	179,063	115,502	273,280	326,272
矢吹町	175,429	107,299	271,223	324,391
石川町	147,730	103,065	143,734	312,590
玉川村	155,231	94,770	163,360	331,236
平田村	150,817	113,717	257,080	321,049
浅川町	131,397	81,043	127,147	321,399
古殿町	175,836	109,654	197,176	328,943
三春町	160,802	104,362	234,623	336,684
小野町	161,549	102,616	235,043	326,991
広野町	156,839	102,735	161,153	349,076
檜葉町	158,689	102,260	143,970	305,152
富岡町	153,926	115,136	171,817	325,183
川内村	194,852	111,764	225,501	320,183
大熊町	155,091	125,389	201,934	321,132
双葉町	153,215	118,315	168,889	323,867
浪江町	148,894	105,932	160,563	323,483
葛尾村	157,778	96,889	203,217	296,332
新地町	165,547	99,548	117,936	347,593
飯舘村	185,256	107,069	199,019	375,133
平均	164,724	107,435	171,696	325,208

※「保険者別 国保連合会業務統計表（確定給付統計）」より算出し、東日本大震災による概算払分等は含まない。
※サービス受給者一人当たりで算出。

介護の動き

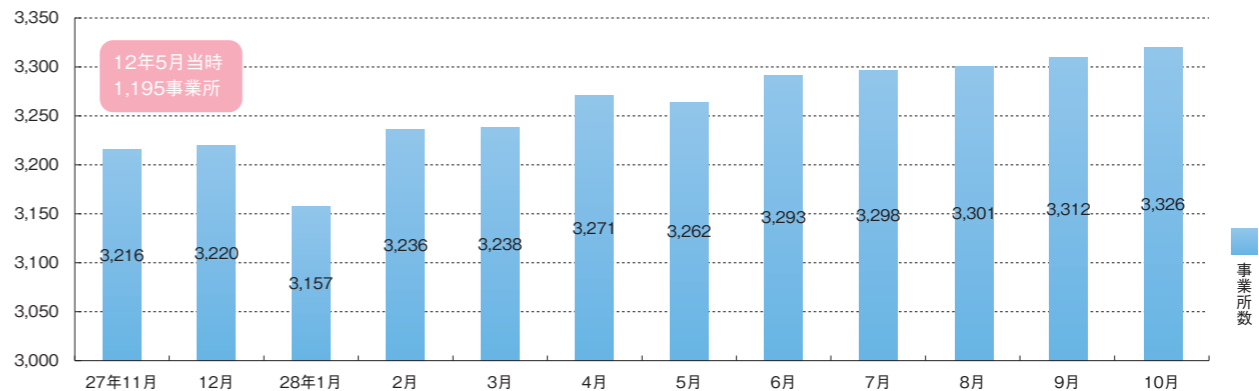
事業所数は1年間で約100事業所が増加し、約3ポイントの増

①介護給付費等支払状況

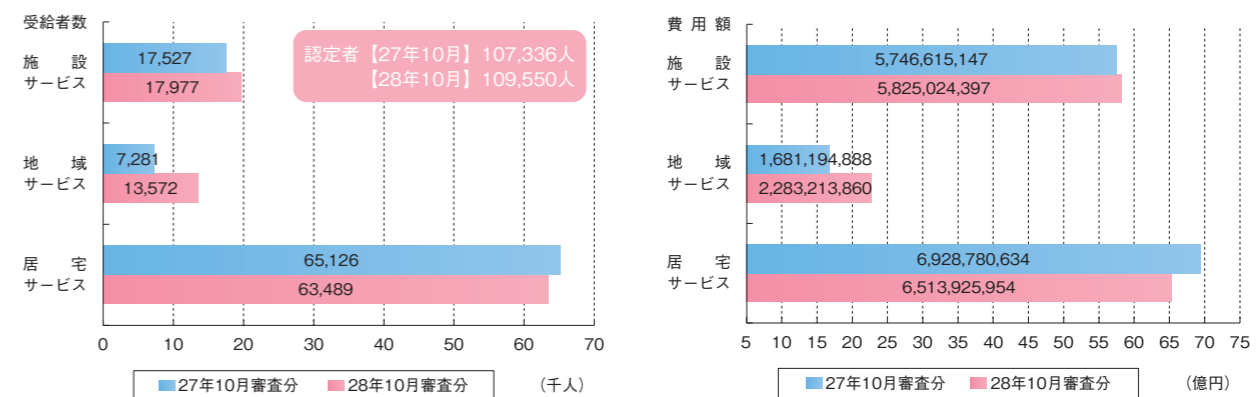


審査月	12年5月	27年11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
受付件数	63,219	219,521	218,662	217,293	213,872	213,137	216,293	217,417	221,895	221,572	223,013	220,969	222,881
確定件数	60,069	213,991	213,390	212,754	209,359	208,566	211,403	211,351	215,122	216,412	219,435	216,953	219,477
支払確定額	3,837,411	12,839,237	12,364,336	12,440,529	11,900,345	12,128,782	12,815,710	12,494,581	12,802,961	12,751,339	13,008,795	12,875,306	12,844,513

②事業所数



③サービス別 受給者数・費用額(28年10月審査分 対前年同月比)



※ ①、②は「国保連合会業務統計表」より算出。※ ③は「保険者別 国保連合会業務統計表（確定給付統計）」より算出。



10月

- 国保会津地区部会意見交換会(会津若松市) 3 [月]
- 平成28年度国保料(税)収納率向上対策研修会(中級者向け)(福島市)・・・① 4 [火]
- 県内の国保担当者が集まり、国保料収納率の向上に向けた研修が行われた。税理士・社会保険労務士の中村昌道氏を講師に迎え、「納税義務の承継」「破産法と破産事件にかかる交付要求」等の講義が実施され、その後事例ごとのグループ討議が行われた。

- 国保浜通り地区部会意見交換会(いわき市) 5 [水]
- 国保南地区部会意見交換会(白河市) 7 [金]
- 全国地域医療学会(山形県)～8日・・・② 7 [金]
- 国保東中地区部会意見交換会(郡山市) 11 [火]
- 国保東北地区部会意見交換会(福島市)・・・③ 12 [水]
- 再審査部会(国保会館) 13 [木]
- 審査委員会(国保会館)～23日 20 [水]
- 柔道整復審査委員会(国保会館) 24 [月]
- 歯科部会(国保会館)
- 第三者行為求償事務相談業務(国保会館)
- 介護給付費審査委員会(国保会館)

11月

- 保険者協議会企画調整部会(国保会館)・・・④ 1 [火]

- 国保問題調査委員会(国保会館)・・・⑤ 2 [水]
- 福島県と各国保地区部会より選出された委員10名が集まり、中期経営計画や平成29年度の事業運営等について協議した。

- 保険者協議会研修会(福島市)・・・⑥ 9 [水]
- 福島県地域医療構想(素案)に係る説明会(福島市)・・・⑦ 10 [木]
- 再審査部会(国保会館) 11 [金]
- 国保主管課長部会(福島市)・・・⑧ 15 [火]
- 国保保険者及び後期高齢者医療広域連合の主管課長を対象に、平成29年度の事業運営等を協議した。また、県保健福祉部国民健康保険課の菅野敏課長より「本県の国民健康保険の現状と国保改革に向けた対応について」と題して講演いただいた。

- 国保制度改善強化全国大会(東京都) 17 [水]
- 審査委員会(国保会館)～20日
- 歯科部会(国保会館)
- 柔道整復審査委員会(国保会館)
- 介護給付費審査委員会(国保会館)
- 福島県国保運営協議会連絡会(いわき市)～25日・・・⑨⑩ 22 [火]
- 第三者行為求償事務相談業務(国保会館) 28 [月]

12月

- 保健事業支援・評価委員会研修会(福島市)・・・⑪ 8 [木]
- 第3回保健事業支援・評価委員会(福島市) 9 [金]
- 再審査部会(国保会館) 14 [水]
- 審査委員会(国保会館)～18日 15 [木]
- 柔道整復審査委員会(国保会館)
- 歯科部会(国保会館)
- 介護給付費審査委員会(国保会館)
- 理事会(国保会館)
- 第三者行為求償事務相談業務(国保会館) 26 [月]



永年の功績をたたえて

平成28年度国保関係功績者厚生労働大臣表彰式が10月17日に厚生労働省講堂で開かれ、本県からは2名が受賞しました。また、国保中央会は9月26日の理事会で、平成28年度の国保中央会表彰被表彰者を決定し、本県からは20名が受賞しました。受賞された皆様には心からお慶び申し上げますとともに、今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰 (順不同・敬称略)

福島県国民健康保険診療報酬審査委員会

委員 須貝 吉 樹

下郷町国民健康保険運営協議会

委員 佐藤 正 也



▲須貝 吉樹 氏



▲佐藤 正也 氏

国民健康保険中央会表彰

福島県国民健康保険介護給付費等審査委員会

委員 須田 滉

公立藤田総合病院

副院長 佐藤 昌 宏

手術部部長兼 渡 邊 智

第二外科長

主任薬剤師 齊藤 直 美

看護師長 本多 文 子

主任看護師 菅野 光 範

主任看護師 渡邊 陽 子

看護師 中村 美代子

主 査 佐藤 美 佳

看護助手 蓬田 美代子

看護助手 志 村 真由美

公立小野町地方総合病院

主任看護師 野 口 美 恵

昭和村国保診療所

主任看護師 齋藤 文 子

主任看護師 齋藤 裕 子

南相馬市立総合病院

医療安全管理部参事兼医療安全管理室次長兼感染対策室次長 高野 美智子

看護部技査 押山 幸子

看護部技査 石川 幸江

医療技術部 寺山 美恵子

臨床検査科技師長補佐

福島県国民健康保険団体連合会

業務管理課専門員 河野 敏 明

業務管理課専門員 清野 秀 樹



連合会からのお知らせ

レセプト点検事務に対する個別支援を実施しています!!

国保連合会では、医療費適正化対策の一環として、各保険者のレセプト点検事務に対し、本会審査担当職員による個別支援を実施しています。

今年度は、これまで希望のあった9保険者に対し実施しました(6月21日付28福国連第1555号「平成28年度保険者レセプト点検事務にかかる個別支援について(通知)」で通知済)。

個別支援の追加希望についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。



▲会津坂下町での個別支援の様子

保険者レセプト点検事務個別支援にかかる内容

①再審査申出にかかる留意事項(医科・歯科) ②レセプト点検内容にかかる質疑応答(医科・歯科)

※①～②(医科・歯科)全体で概ね2時間程度を予定しています。

お問い合わせ

福島県国民健康保険団体連合会 業務審査課 石川・安達
TEL:024(523)2804 E-mail:gyoumu-sinsa@fukushima-kokuho.jp

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

お正月と言えばお雑煮ですが、皆さんの家のお雑煮はどんなお雑煮でしょうか？我が家は短冊切りの大根、凍み豆腐、醤油で煮込んだ鶏肉が入った醤油ベースのつゆに、煮た角餅が入り三つ葉を散らします。各地方出身の友人に聞くと丸餅だったり味噌ベースだったり魚介が入っていたりと本当に多彩で驚くと共に、いつか食べてみたいなあ、と全国お雑煮の食べ歩きの旅に夢は広がります。また、美味しいお餅ですが、食べすぎは正月太りの危険が！食べるだけでなく、きちんと体を動かして健康な一年のスタートにしたいと思います。(五)

連合会行事予定

2月

1月

下旬

● 保険者協議会総会(国保会館)

22
[水]

● 総会(福島市)

中旬

● 理事会(国保会館)

月上旬

● 第4回保健事業支援・評価委員会(福島市)

27
[金]

● 平成28年度介護給付費適正化担当者説明会(福島市)
● 医学部役員会(福島市)

表紙によせて



星の村天文台台長の大野裕明さん(68歳)。小学校5年生の時、担任だった理科の先生の影響で星空に興味を持って以来、天体観測一筋の人生。憧れだったオーロラ、皆既日食、流星雨をすべて見終えた今も星空への関心は深まるばかりです。元気の秘訣は「大好きな星空の魅力を子どもたちに伝えること」。取材当日も子どもたちへ語りかける大野さんの笑顔が印象的でした。

—— 福島県国民健康保険団体連合会 ——



連合会HP



広報誌
バックナンバー



E-mailアドレス



福島県国民健康保険団体連合会の様々な情報は
<http://www.fukushima-kokuho.jp> へアクセス

「ふくしまの国保」では皆様のご意見、ご感想をメールで募集しております。今後の紙面づくりに生かして参りますのでご協力、よろしくお願い致します。

E-mail kikaku@fukushima-kokuho.jp (企画推進課)
※QRコードを読み取り、表示されたURLからメールが作成できます。